

平成19年1月31日

東京電力株式会社のデータ改ざんに関する調査結果
について

柏崎市長 会 田 洋

本日、東京電力株式会社から法定検査等に関するデータ改ざんについての調査結果の報告があった。

報告内容の詳細についての吟味はこれからであるが、過去における定期検査等において多数の改ざんが行われていたことの報告には、改めて驚きを禁じ得ず誠に遺憾である。

特に、平成4年5月に行われた1号機の起動に先立って実施された定期検査において、重要機器のモーター故障を隠す操作を行い、このポンプの機能が確保されないまま原子炉の起動操作が継続されていたという事実は、発電所の安全を確保する上であってはならないことであり、改めて当時の東京電力の品質保証体制が機能不全であったことを再認識させられる結果である。

また、このような改ざんの事実を平成14年の不正問題により行われた総点検の際に明らかにすることができなかったことは極めて遺憾である。

しかしながら、平成14年8月以降に関して不正が見られなかったとの報告は、その後の再発防止の取り組みが成果を上げている兆候かも知れないと受け止めている。

いずれにしても、今後法定点検以外の事項についても調査が続けられることから、今回の総点検を通して「膿を出し切る作業」を確実に実施するとともに、不正が起こる原因を徹底的に究明し、何においても発電所の安全運転に万全の体制を築き上げることを求める。